

⑤ 日本国特許庁 (JP)

⑥ 美用新案出願公開

⑦ 公開実用新案公報 (U)

平3-98596

⑧ Int. Cl. 5

H 04 R 7/02

識別記号

庁内整理番号

A 8421-5D

⑨ 公開 平成3年(1991)10月14日

審査請求 未請求 請求項の数 4 (全1頁)

⑩ 考案の名称 スピーカ用振動板

⑪ 審 順 平2-6199

⑫ 出 願 平2(1990)1月29日

⑬ 考案者 太田 幸平 東京都渋谷区渋谷2丁目17番5号 株式会社ケンウッド内
⑭ 出願人 株式会社ケンウッド 東京都渋谷区渋谷2丁目17番5号

⑮ 実用新案登録請求の範囲

1 超延伸高強度・高弾性率ポリエチレン繊維と、炭素繊維とが交織布に構成した布帛と、熱硬化性樹脂からなるスピーカ用振動板において、

上記熱硬化性樹脂の充填材としてセルロース基系粉体を充填したことを特徴とするスピーカ用振動板。

2 上記熱硬化性樹脂の充填材としてセルロース基系粉体に代えてオレフィン系の短繊維を充填したことを特徴とする請求項1記載のスピーカ用振動板。

3 上記熱硬化性樹脂の充填材としてセルロース基の粉体に代えてオレフィン系の中空繊維を充填したことを特徴とする請求項1記載のスピーカ用振動板。

カ用振動板。

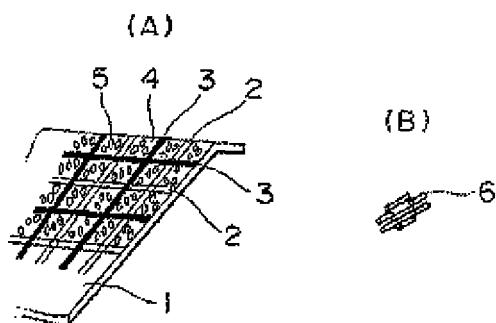
4 上記熱硬化性樹脂の充填材としてセルロース基系粉体とオレフィン系の短繊維の混合体を充填したことを特徴とする請求項1記載のスピーカ用振動板。

図面の簡単な説明

第1図はこの考案に係るスピーカ用振動板の実施例を示し、第1図Aは部分断面した斜視図、第1図Bは充填材の短繊維を示した斜視図である。第2図は従来例のスピーカ用振動板の部分断面した斜視図である。

主な符号の説明、1……スピーカ用振動板、2……超延伸ポリエチレン繊維、3……炭素繊維、4……ビニールエスチル熱硬化性樹脂、5……セルロース基系粉体、6……オレフィン系短繊維。

第1図



第2図

